

Buddhist ruins exploration record at silk road シルクロード仏教遺跡探訪記

11日目【2000年4月24日】

蘭州名物、牛肉麺〈蘭州〉前半

昨日の朝、夜行寝台列車で蘭州に着き、睡眠不足だったせいか、昨夜は深く眠ることが出来、今朝の目覚めは爽快だった。

朝食は、またしても中華バイキング。嬉しいことに、ハムエッグとパンがあった。しかし、コーヒーは無し。

旅の出発前、「食に関しては、全く問題ない。中華料理は大好きだ」と言っていたが、さすがに毎日の、しかも朝から中華料理は辛いものだ。



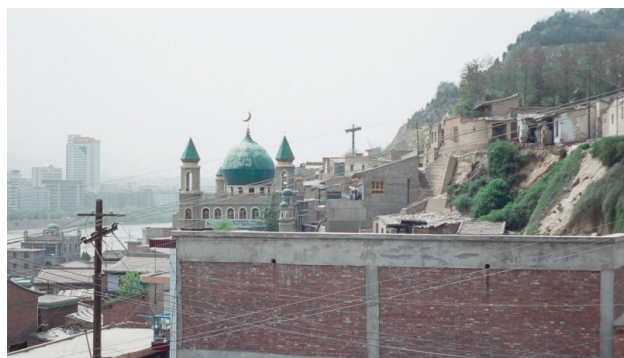
高さ17メートルの白塔

午前中、いつものように、次の滞在地行きの鉄道切符の手配に行った。ホテル内の旅行会社だったが、なんとここはオンライン化されているらしく、その場でチケットが取れた。毎度のことだが、嬉しく安堵する瞬間だ。

昼から蘭州市内にある、白塔山と五泉山という、黄河対岸に相對する二つの山の公園に行った。ここ蘭州は、青海省に端を発した黄河が、初めて通過する大都市である。私は黄河に対して、海のように対岸が見えないというイメージを持っていたが、それは河口部であるとのこと。この黄河には橋が架かって渡れた。川面はやはりその名に相應しい黄色（泥色）だった。



黄河に架かる橋



慈恩寺

昔は、物を大事に使い、大切にしてきました。それは、物には魂が宿っていると感じていたのでしょう。今の私たちは、物は使い捨て、直ぐに新しく買う。
物に命を感じること、今の私たちには必要な価値観のようないきがします。
何か一つでも、自分の魂を宿した物を、次の世に残せたら良いですね。



本堂の香炉

右が着丈の長い夏用の御衣



本堂の香炉を磨く時、獅子と龍に挨拶します。すると、獅子と龍に魂が宿るが如く、優しく微笑み掛けてくれるような気がしてきます。

何年も着ていなかった古い御衣を手にとってみました。明らかに、昨年までの御衣よりも、着丈が長い。「はて？」、直ぐに分かりました。「おじいちゃんが着ていた衣だ」、その瞬間、その御衣に魂が宿りました。大好きだった祖父を思い返し、御衣を身に着けたら、おじいちゃんが優しく抱きかかえてくれるような、安心感に包まれました。

住職レター

『物（もの）』には命はありません。しかし、物に魂が宿る瞬間を感じたことはありませんか？
例えば、その物を見たら、懐かしい人を思い出した、その物に触れたら、大切な人のぬくもりが感じられてくるとか。

Buddhist ruins exploration record at silk road シルクロード仏教遺跡探訪記

11日目【2000年4月24日】

全37日間

蘭州名物、牛肉麺〈蘭州〉後半

白塔山には慈恩寺があり、チンギス・ハンに謁見するために派遣されたチベット僧が、この地で病没したのを記念して建てられたそう。山肌にはいくつもの楼閣が建てられており、中でも高さ17メートルの白塔は、中国とインドの建築様式を折衷したものとされている。

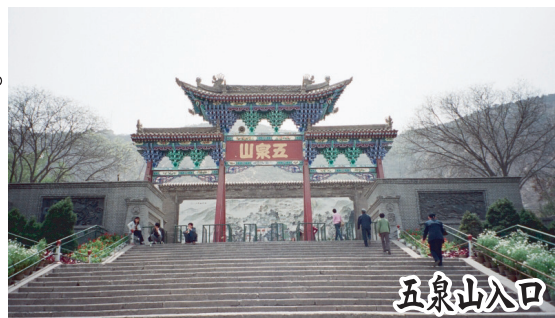
五泉山は前漢の武将・霍去病が西域に派遣され、人馬を率いてこの地に辿り着いた時、水の確保に苦しんだが、彼が剣を山肌に突き刺したところ、そこから泉が湧き出したという伝説の地である。名前の通り五カ所に泉があった。

ここ蘭州は「牛肉麺」が全国的に有名とのこと。町の至る所に牛肉麺のお店があり、どこにしようかと見ながら歩いていると、女性が声を掛けてきたのでその店に入ってみた。彼女は片言の英語を話した。〇〇大学（聞き取れなかった）で英語を勉強したと言っていた。

気さくな彼女は、さらに日本人の友人が三人いると言った。どこで知り合ったのかと聞くと、今までこの店に日本人が三人来たとのこと。つまり、私は四人目の友達という訳だ。

記念にデジカメで、今から食べる牛肉麺を撮ろうとしたら、何を勘違いしたのか、お店の人が皆やってきた。矢継ぎ早に色々聞いてくるから、牛肉麺は冷めてしまった。味がやはり香辛料で辛く、冷めたくらいが丁度良かった。

蘭州の人たちは、言葉が通じなくても明るく、面白い人が多く、良い印象が残った。（デジカメ画像はデータ消失）



五泉山入口



五泉山の泉



五泉山の本堂

*毎月十六日に本堂において勤めております。

門信徒祥月命日法要
六月十六日（月曜日）
午後一時半～

宗祖聖人月忌・

（東広島市志和町光源寺）

講師 堀靖史師

午前十時～ 朝席
午後一時半～ 昼席



「安居会（夏の法要）」（善教寺本堂）

六月十四日（土曜日）

講師 吉崎哲真師（湯来町西法寺）
*東広島組仏教婦人会連盟主催行事

六月一日（日曜日）

午後一時～

「東広島組仏教婦人会連盟大会」

（西楽寺本堂）

今後の法要スケジュール

ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://otera.or.jp/>

メール zenkyo@otera.or.jp